

寸言

株式会社IHIエアロスペース
代表取締役社長

牧野 隆



New SpaceとLegacy Space

この度、SJAC宇宙委員会の委員長に就任しました(株)IHIエアロスペース代表取締役社長の牧野です。航空宇宙産業の発展に、微力ながら貢献できればと思っております。

1955年の糸川先生による東京国分寺におけるペンシルロケットの水平発射試験から65年、1970年の日本初の人工衛星「おおすみ」の打上げから50年が経ちました。当社は、固体ロケットを中心とした各種宇宙プログラムに参画してきました。このロケット開発によって培われた炭素繊維強化プラスチック(CFRP)のスピンオフとして、航空機エンジンの部品事業を展開しています。宇宙開発では、年産10台程度でも量産と言ってきましたが、ジェットエンジン事業では、2桁上の生産数の量産を行っています。航空宇宙事業は共通の技術基盤に立脚しており、両事業のシナジーにより更なる発展を目指したいと思えます。

本年6月に、宇宙基本計画が見直され、閣議決定されました。この新宇宙基本計画では、

- ① 安全保障や産業利用等のニーズによる出口主導
- ② 投資の予見性と民間活力活用
- ③ 人材・資金・知的財産等の資源の効果的活用
- ④ 同盟国・友好国との戦略的連携

の4つのスタンスが謳われています。

私たち産業界も、宇宙アセットが、どのように人々の生活に貢献していくかを自ら考えるとともに、宇宙業界外の人々との交流を深め、新しい宇宙利用を発掘し、事業化を進める必要があります。

アメリカでは、今年の5月に民間宇宙船Crew Dragon(クルードラゴン)が宇宙飛行士を国際宇宙ステーション(ISS)へ輸送し、無事地球に帰還しました。日本人宇宙飛行士の野口聡一氏が、クルードラゴンの運用初号機に乗り、半年間のISS滞在へ出発する計画も公表されました。このように、宇宙活動の主役が民間へと移り変わる中で、我が国も、宇宙基本計画に示された『基盤強化と利用拡大の好循環を実現する、自立した宇宙利用大国』を目指す必要があります。

昨年打上げたイプシロンロケット4号機では、国内の新しい宇宙のプレイヤー(New Space)の皆様の衛星を打上げさせていただきました。また、来年予定されている5号機でもNew Spaceの皆様の衛星打上げが計画されています。我が国においても、新しい宇宙ビジネスの活性化により、小型衛星の打上げ市場が更に拡大していくことを期待しています。私たちLegacy Spaceも、打上げサービスの提供に留まらず、New Spaceの皆様と多様な交流を行うことで、化学反応を起こし、日本ならではの新しい宇宙産業へ進化させたいと思えます。

コロナ禍により生活様式が急速に変わり、ニューノーマルという言葉が浸透してきている中、宇宙利用が大きな役割を果たし、そしてこれからも果たしていくべきであることに疑いはありません。宇宙産業がどのように人々の生活に貢献できるかを念頭に、航空宇宙工業会の皆様やNew Spaceの皆様と議論を交わし、明るく、楽しく、そして持続可能な世界への方向性を見つけていきたいと思えます。皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。